

子ども「の」食堂 子どもが作る「おとな様ランチ」

新しくリノベーションされた「とよなか地域創生塾庄内拠点」を活用して「子どもの食堂」を開きます。このスペースは子どもが大人の仕事を創造的に考えて体験してみることで主体性や協調性を学び、その経験を通じて子どもたちの可能性を広げ、夢を育てることを目的とします。

特徴その1：「子どものチャレンジや失敗を認める」

このお店では、間違いや挑戦を受け入れ、子どもの発想を生かした独創性あふれるメニューを提供します。
例えば、「子どもが作る、大人様ランチ」。事前に様々な種類のおかずを用意し、その時の子どもの気分によって出てくるおかずや盛り付けが変わったり、ちょっとした味付けなどもオーダーによって変わります。それが例え美味しなかったとしても、この食堂では許されます。むしろそれを看板にすることで、ここでしかできないことを生み出します。また、こういった雰囲気作りを通じて、子どもの好奇心や挑戦する心を育てることができ、自己肯定感を生み出します。

特徴その2：「音大生が関わる運営」

この食堂を、単なる食事処にするのではなく、部室のような食堂にします。このスペースを利用して音大生が練習をできる公開練習スペースを作ったり、その場でお客さんに音大生が楽器をレクチャーしたりすることで、食堂にきたお客さんとの交流や、子どもたちとの交流も増え、地域との繋がりを増やします。

背景

豊中市南部地域は様々な要因により、子育て世代や子どもの学びに対する課題が多い地域です。そこで実際に地域の人と関わりながらお店で働き、給料をもらい、商店街で買い物をするという体験を通してこれまでと違う視点を学び、自ら「生きる力」を身につけていくことを狙いとしています。
またこれらの活動が単年度で終わる事なく、継続的な取り組みとして実施することで、継続的な創造活動の中から、これまでの既存概念とは違った別の視点に触れることで子どもたち自身が自ら抱える様々な問題解決の糸口を見つけ、解決していく力を身につけ日常生活の向上につなげていくこととなります。

実現までの流れ

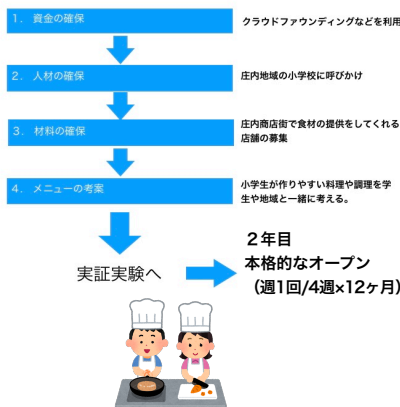
実現する主体

- 庄内地域に住む小学生
- 大阪音楽大学学生
- 庄内商店街および地域の人たち
- NPOなど市民活動団体

実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）

- 【ヒト】 庄内地域の小学生、商店街のお店の経営者（地域通貨の利用を可能にする店舗）
- 【モノ】 拠点：「とよなか地域創生塾庄内拠点」を利用
食材：地域の市場を利用
調理器具：商店街の人たちに協力してもらい使用しなくなったものを集める。
楽器：地域で使用しなくなったものを集める。
- 【カネ】 収入：クラウドファンディング、助成金
支出：材料費、地域通貨による金券（子どもたちへの働いてくれたお礼）

アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン



数年後には、
参加した小学生が大きくなって
教える立場になったり・・・

さらに何十年と経って
ここを卒業した人の中から
シェフが誕生？！



関係図

